

事業名	トコブシ母貝供給モデル開発試験
予算区分	地方創生推進交付金
事業実施期間	R4～R6
担当者	石川貴志、吉見圭一郎(海洋生産技術担当)
共同研究機関等	
<p><目的></p> <p>海洋環境が変化する中、アワビ漁獲量は減少傾向にある。漁業者は、禁漁区の設定と種苗放流による積極的な資源回復に努めているが、アワビは成長が遅く、効果発現に年数を要する。また、海水の高水温化の影響もあり、より南方系で成長の早いアワビ類であるトコブシ <i>Haliotis diversicolor</i> を狙った漁に移行する漁業者が急増している。このことにより、トコブシ資源に過度に高い漁獲圧が掛かっている上、トコブシ禁漁区が未だ設定されていない状況である。また、小島ら(2022)によると、海部郡牟岐町における調査で、成熟が確認されたトコブシの最小サイズは殻長32 mmであり、徳島県漁業調整規則ではそれよりも小さい殻長30 mmから採捕可能であることから、産卵母貝が減少してトコブシの再生産が阻害される恐れがある。そこで、本事業では、トコブシ資源の持続的な利用を可能とするため、トコブシ産卵母貝の保護・育成を図る禁漁区の設定、母貝となる人工種苗の放流を行うことで、トコブシ母貝供給モデルの開発を検討する。</p> <p><方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適地調査 トコブシ母貝の成育に適した環境を調査した。 2. 保護区の設定 地先の漁業者と協議を行い、トコブシの禁漁区を設定した。 3. 放流用種苗の育成 8 m巡流水槽において、放流用種苗19,000個の中間育成を行った。餌料は飼育水の汚れや残餌の掃除頻度を軽減するため、乾燥アラメを用いた。 <p><結果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適地調査 令和5年3月8日に海部郡美波町由岐地先にて潜水調査を行ったところ、ウメトラにトコブシの成育に好適な環境を見つけた。好適な環境とした基準は、水深5 m以浅であること、人頭大の転石があること、餌となる海藻が繁茂していることである。 ウメトラは、水深5 mより浅く、π型の小型のブロック礁が沈設されている。ヤツタモク、ヨレモクモドキを代表とするホンダワラ類が繁茂しており、カジメ類の新規入植も多数見られた。トコブシの餌となる小型の紅藻類も繁茂しており、成育に必要な人頭大の転石も見られた。πブロック礁の隙間には、アワビ類、サザエ、ウニなどが多く見られた。 2. 保護区の設定 上記の地区について、漁業権者である由岐漁業協同組合に所属する漁業者にトコブシの成育に適している地区である旨を説明し、今後、種苗放流を行うとともに、トコブシ保護区と 	

設定することについて、同意を得た。

3. 放流用種苗の育成

中間育成開始時、平均殻長22.8 mmであった種苗について、乾燥アラメを主な餌料とすることで成熟が始まるサイズである殻長32 mmを超える種苗へと育成することができた。

<今後の課題>

- ・保護区増設のため、天然海域への餌料供給の検討

<次年度の計画>

保護区へ標識を装着したトコブシ種苗の放流を行い、追跡調査を行う。

<結果の発表・活用状況等>

他地区での保護区設定に向け、本試験成果の周知を行っていく。



写真1. 保護区ウメトラの様子。

参考文献

小島博・廣澤晃・森啓介・中西達也・上田幸男. 徳島県牟岐町地先における人工種苗および天然産トコブシの成長と産卵に関する知見. 徳島水産報第14号, 2022.